

## インスリン アスパルト BS 注カート NR「サノフィ」

### 【この薬は？】

販売名	インスリン アスパルト BS 注カート NR「サノフィ」 Insulin Aspart BS Injection Cart NR「Sanofi」
一般名	インスリン アスパルト（遺伝子組換え） [インスリン アスパルト後続1] Insulin Aspart(Genetical Recombination) [Insulin Aspart Biosimilar 1]
含有量 1カートリッジ (3mL中)	300単位

### 患者向医薬品ガイドについて

**患者向医薬品ガイド**は、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」  
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

### 【この薬の効果は？】

- ・この薬は、超速効型インスリンアナログ製剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- ・この薬は、細胞内への糖の取り込み、肝臓で糖を作るはたらきの抑制、および肝臓、筋肉におけるグリコーゲン合成の促進作用などにより血糖値を下げます。
- ・次の病気の人に処方されます。

#### インスリン療法が適応となる糖尿病

- ・2型糖尿病患者においては、急を要する場合以外は、あらかじめ糖尿病治療

の基本である食事療法、運動療法を十分行ったうえで、医師の判断により処方されます。

- ・この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者または家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減せず、医師の指示に従ってください。

## 【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・低血糖症状の人
- ・過去にインスリン アスパルト BS 注に含まれる成分で過敏症を経験したことがある人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・手術を受けた人、外傷を受けた人、感染症にかかっている人
- ・次のような、低血糖を起こしやすい人
  - ・脳下垂体機能に異常のある人、副腎機能に異常のある人
  - ・下痢、嘔吐（おうと）、軽度胃アトニーなどの胃腸障害のある人
  - ・飢餓状態の人、食事が不規則な人
  - ・激しい筋肉運動をしている人
  - ・飲酒量の多い人
  - ・腎臓や肝臓に重度の障害がある人
  - ・食物の吸収遅延が予測される疾患のある人または食物の吸収を遅延させる薬を使用している人・食物の吸収遅延が予測される疾患のある人または食物の吸収を遅延させる薬を使用している人
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

## 【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

### ●使用量および回数

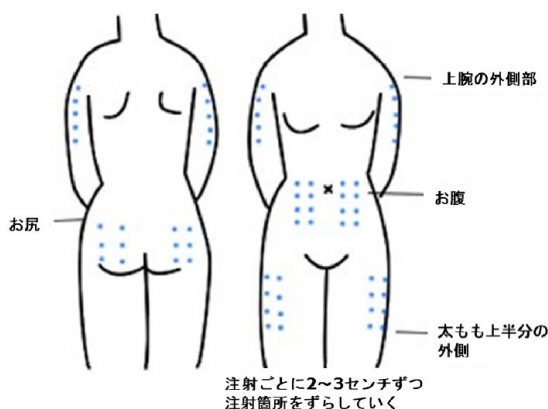
使用量と回数は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人では初期は1回2～20単位を毎食直前に、専用のインスリンペン型注入器を用いて皮下注射します。その他の持続型インスリン製剤の使用量を含めた維持量は通常1日4～100単位です。

### ●どのように使用するか？

- ・専用のインスリンペン型注入器を用いて皮下注射します。詳しくは、専用のインスリンペン型注入器の取扱説明書を参照してください。
- ・この薬は持続型インスリン製剤と併用されます。
- ・この薬は速効型ヒトインスリン製剤より血糖降下作用の発現が速いため、食直前に注射してください。
- ・皮下注射は、上腕、大腿（だいたい）、腹部、臀部（でんぶ）などに行います。注射部位により吸収速度が異なるので部位を決め、その中で前回の注射箇所から

2～3 cm離して注射してください。



- ・皮下注射専用の薬であるため、静脈内に注射しないでください。
- ・注射針は必ず一定の規格（JIS T 3226-2 に準拠したA型専用）に適合したものを使用してください。  
（詳しくは、医師もしくは薬剤師の指示に従って下さい。）
- ・この薬と注射針を装着した時に液漏れなどの不具合が認められた場合には、新しい注射針に取り替えてください。
- ・一本のインスリンカートリッジを複数の人で使用しないでください。
- ・インスリンカートリッジにひびが入っている場合には、使用しないでください。
- ・インスリンカートリッジの内壁に付着物がみられたり、液中に塊や薄片がみられたり、また、使用中に液が変色しているような場合には、使用しないでください。
- ・注射後、注射針を廃棄してください。

#### ●使用し忘れた場合の対応

- ・決して2回分を1度に注射しないでください。
- ・注射を忘れた場合は、医師に相談してください。

#### ●多く使用した時（過量使用時）の対応

- ・異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

### 【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬を使用するにあたっては、注射法や低血糖症状への対処法、使用済みの製剤や針の安全な廃棄方法などについて患者さんまたは家族の方は十分に理解できるまで説明を受けてください。
- ・必ず専用のインスリンペン型注入器の取扱説明書を読んでください。
- ・指示された時間に食事をとらなかつたり、食事の量が少なかつたり、いつもより激しい運動をしたりすると低血糖症状があらわれることがあります。低血糖に関する注意を必ずご家族にも知らせてください。低血糖症状が認められるものの、意識障害がない場合は、通常は糖質を含む食品を飲食してください。α-グルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース、ミグリトール）を併用している場合は、ブドウ糖を飲食してください。意識が薄れてきた場合は、ただちに受診してください。**副作用は？**に書かれていることに特に注意してく

ださい。

- ・高所での作業や自動車の運転など、危険を伴う作業に従事しているときに低血糖症を起こすと、事故につながるおそれがありますので、特に注意してください。
- ・肝機能障害（疲れやすい、吐き気、食欲不振など）があらわれることがあります。これらの症状があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。
- ・急激な血糖のコントロールに伴い、糖尿病性網膜症（視力の低下、視野が狭くなるなど）があらわれたり、悪化したり、目の屈折異常がおこったり、痛みを伴う神経障害（手足のしびれや痛み、手足の感覚がなくなるなど）があらわれることがあります。
- ・この薬と他のインスリン製剤を取り違えないように、毎回注射する前にラベルなどを確認してください。
- ・同じ箇所を繰り返し注射すると、皮膚アミロイドーシス（インスリン由来のたんぱく質が変化した硬い固まり）またはリポジストロフィー（皮下脂肪が変化した硬い固まり）ができることがあるので、以下について十分に理解できるまで説明を受けてください。
  - ・「どのように使用するか？」に書かれているとおり、同じ部位に注射する場合は、少なくとも前回の注射箇所から2～3 cm離して注射してください。
  - ・注射箇所に硬い固まりが認められた場合には、当該箇所を避けて注射してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

## 副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
低血糖 ていけつとう	お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、意識の低下
アナフィラキシー ショック	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、疲れやすい、けいれん、ふらつき
頭部	意識の低下、めまい
顔面	血の気が引く、顔面蒼白

部位	自覚症状
口や喉	喉のかゆみ
胸部	動悸
腹部	お腹がすく
手・足	手足のふるえ、手足が冷たくなる
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹

## 【この薬の形は？】

性状	無色澄明の液である。
内容量	1カートリッジ中 3 mL
容器の形状	

## 【この薬に含まれているのは？】

有効成分	インスリン アスパルト（遺伝子組換え） [インスリン アスパルト後続1]
添加剤	m-クレゾール、フェノール、塩化ナトリウム、塩化亜鉛、ポリソルベート 20、水酸化ナトリウム、塩酸、注射用水

## 【その他】

### ●この薬の保管方法は？

- ・使用開始前は、凍結を避けて冷蔵庫など(2～8℃)で保管してください。光を避けてください。
- ・使用開始後は冷蔵庫には入れず、室温(30℃以下)にキャップなどにより光を避けて保管し、4週間以内に使用してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

### ●薬が残ってしまったら？

- ・残った場合は廃棄してください。処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。
- ・絶対に他の人に渡してはいけません。

### ●このくすりの廃棄方法は？

- ・使用済みの針およびインスリン アスパルト BS 注カート NR「サノフィ」については、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

## 【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。  
製造販売会社：サノフィ株式会社 (<https://www.sanofi.co.jp>)

くすり相談室

フリーダイヤル 0120-109-905

月～金 9時～17時（祝日・会社休日を除く）

- ・操作方法に関する質問は下記へお問い合わせください。

オペコール24（24時間365日）

0120-49-7010（フリーダイヤル）